



野木小学校だより

野ぎくの子

校長室から 2023/10/20

2023年度 学校教育目標

「自ら問い 自ら考え 自ら行動する」

【めざす児童像】

よく考える人・自分や人を大切にする人・チャレンジする人



秋の遠足

10月13日に遠足を行いました。行先は、1・2年生がびわ湖こどもの国、3～5年生が福井県児童科学館、金津創作の森でした。それぞれ、創作活動等で楽しく充実した時間を過ごしました。



後期児童会役員の紹介



児童会長 6年 鈴木慶吾さん

野木小学校の子どもは、とても元気で笑顔がいっぱいです。中でもあいさつがとてもいいです。あいさつのおかげで野木小学校のふんい気がすごく明るいです。これからも、この元気なあいさつが続けられるようにしていきましょう！

児童会副会長 6年 清水碧唯さん

野木小学校は笑顔があふれる元気な学校です。そこで、より安全に過ごすために、ろう下を走らないようによびかけたり、ポスターを作ったりしたいと思います。

児童会書記 6年 東山晃生さん

野木小学校では、登下校の時に、しゃべるのに夢中で、列がみだれてしまうことがあります。だから、それが解決できるような企画などを考えたいです。児童会長、副会長といっしょにがんばりたいです！

～11月のおもな行事予定～

- 11月 1日 (水) マラソン大会
- 11月 2日 (木) マラソン大会予備日
- 11月 3日 (金) 文化の日
- 11月 9日 (木) 若狭町小中学校音楽会 (パレア若狭) 5・6年生出場
- 11月13日 (月) 1年生あいさつ運動週間 (17日) 町教育研究会 14:30一斉下校
- 11月17日 (金) 就学時健康診断 1～3年生は13:30下校 (4～6年生は平常通り)
- 11月23日 (木) 勤労感謝の日
若狭町PTA連合会ポッチャ大会 (三方体育館)
※育友会役員さんが参加されます。
- 11月27日 (月) 学校公開日 フラワー交流
- 11月28日 (火) 後期校内研究会 13:30一斉下校



マラソン大会について

11月1日(水) <スタート時刻> ↓

1・2年(1km) …10:40 3・4年(2km) …10:50 5・6年(3km) …11:05

- ・校庭をスタートし、兼田方面の農道を使用させていただきます。
- ・ご都合のつく方は、沿道で御声援をいただくと幸いです。



(10月の校長講話) 10月10日

先週は野木小学校で町の陸上記録会が行われました。5・6年生が全員出場しましたが、みんな今まで頑張ってきた練習を十分に出し切って、よく頑張っていました。たくさんの方が入賞して、1位になった人も2人いました。他の学年の人も途中で見に来てくれて、とても大きな声で応援してくれましたね。きっと選手の人達は応援を聞いて、力が湧いてきたことと思います。本当にありがとうございます。みなさんも5年生になったら、陸上記録会に出るので、今からたくさん走り、跳んだり、投げたりして体をきたえておきましょう。競技の他でとても素晴らしいなと思ったことがあります。それは閉会式が終わった後、5・6年生の人たちが、重いテントのおもりをせせと運んだり、机やいすの脚をぞうきんでふいたりなど、自分たちで後片付けをしっかりとやっていたことです。野木小学校以外の人、バスを待っている学校の人たちが、テントをたたんだり、倉庫に運んだり、進んでやっている姿を見てとても感心しました。

さて、今日はかしこい人の話をします。本当にかしこい人は何かを知っている人です。この

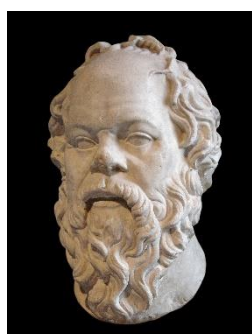
の中には何が入ると思いますか。

「かしこい人 → を知っている人」

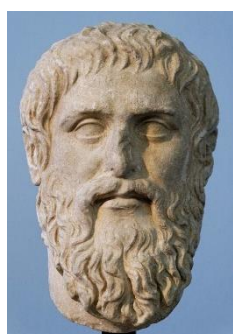
答は「知らないこと」を知っている人です。何だかわけが分かりませんね。もう少し詳しく言うと、「自分が知らないことを知らないと感じている人」という意味です。もっとわかりやすく言うと、本当にかしこい人は「自分にはまだ知らないことやわからないことがいっぱいあるな。」と思っている人だということです。例えば、今、玄関の前の遊具の草むらで虫を探す人がたくさんいますね。虫に興味を持つと、「バッタにはどんな種類があるのかな?」とか「どんなものを食べるのかな?」「オスとメスの違いは?」「体の中はどうなっているのかな?」「冬はどうしているのだろうか?」などと知らないことが次から次へと出てきます。そうすると「自分は虫については知らないことがいっぱいあるなあ。」と思うようになります。これが「知らないことを知っている」ということです。知らないとわかると、知りたくなる、そうするとまた知らないことが出てきて知りたくなる…そのくり返しでどんどん知っていることがふえてきます。だから知らないことを知っている人はかしこいということなのです。これは虫のことだけではなく、スポーツでも野球やバレーボールなど、うまい人ほど「自分はできないことがまだまだたくさんある」と分かっている、できることをふやしていこうと練習を頑張るので、ますますうまくなっていくのです。

みなさんの勉強の様子を見てると、よく「わかりました」と言っているのを聞きますが、なんとなく「わかったつもり」になっているということはありませんか。もしかすると「わからない」ことは恥ずかしいことだと思っている人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。分からないのは当たり前で、わからないから学校に来て勉強するのです。だから「わからない」という言葉は宝物のように素敵な言葉だと思います。学校の目標の「自ら問い 自ら考え 自ら行動する」の中で、私は「自ら問う」ということが一番大事だと思っています。「あれ?」「なんでだろう?」「どういうことかな?」を考えればわかり方が深まっていき、勉強することがどんどん楽しくなって、どんどんかしこくなっていきますよ。だから、これからは「わかました」よりも「わかりません」とか「どうしてですか?」などをいっぱい言える教室にしていってください。

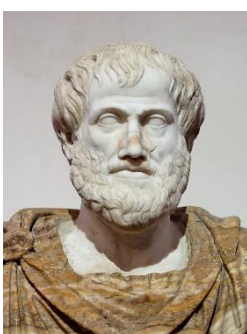
初めに言った、「知らないことを知っている」という考え方は、「無知の知」と言われています。このことを最初に言い出した人は今から2500年ほど前の大昔、ギリシャの国にいたとてもかしこい人でした。その人の名前は



ソクラテス
紀元前 470?~399



プラトン
紀元前 427~347



アリストテレス
紀元前 384~322

「ソクラテス」といいます。このソクラテスの弟子に「プラトン」という人がいました。さらにプラトンの弟子に「アリストテレス」という人がいました。今、人類はたくさんの知識を身に付けて、ものすごく発展していますが、それも大昔のギリシャのこの3人の力が大きいといわれています。